

1. ナチスに追放されたが、戦後帰国して社会研究所を再建。ファシズムや管理社会を批判した学者集団。 1
2. **BOOK** ホルクハイマーとアドルノの共著。啓蒙の歴史は、矛盾・対立する自然と理性のマイナス面を止揚することで、「野蛮への退行」としてのファシズムを台頭させたと説く。 2
3. **PERSON** 20世紀、ドイツのユダヤ系哲学者・社会学者でフランクフルト学派。社会研究所初代所長。アドルノと『啓蒙の弁証法』を著す。 3
4. **PERSON** 20世紀、ドイツのユダヤ系哲学者・社会学者でフランクフルト学派。ホルクハイマーとともに『啓蒙の弁証法』を著す。 4
5. ホルクハイマーとアドルノが『啓蒙の弁証法』の中で述べた、理性のマイナス面を表す言葉。理性が自然を支配する道具に墮落し、人間の内面の自然をも支配してファシズムを台頭させたと説いたもの。 5
6. **BOOK** フロムが、ナチスに迫害されて米国に亡命した体験に基づいて書いた主著。束縛からの自由がもたらす孤独や不安に耐えきれない現代人が、自由から逃れてファシズムにからみとられる心理を看破した。 6
7. **PERSON** 20世紀、ドイツから亡命した米の精神分析学者・社会心理学者。フランクフルト学派の社会理論にフロイトの学説を導入した。 7
8. **BOOK** ハーバーマスが、合意による公共性を生み出すために対話的理性を重視すべきであると説いた主著。 8
9. **PERSON** 20世紀、ドイツの社会学者。フランクフルト学派の第2世代だが、意見の相違で脱会。市民的コミュニケーションの理論を説く。 9
10. ハーバーマスが『コミュニケーション行為の理論』の中で、合意による公共性を生み出すために重視すべきであるとした理性。 10
11. 真理とは社会構造（システム）を通して得られるものなので、時代や文化の違いによって異なり、それらは同等に価値があるとする思想的立場。西洋中心主義や理性万能主義をノックアウトした現代思想。 11
12. **PERSON** 19・20世紀、スイスの言語学者。主著の『一般言語学講義』の中で構造主義的な考え方を初めて展開し、構造主義のモデルになる。たとえばジャンケンは、「ゲ-チョキハ-」でなく「三竦み」という構造。 12
13. **PERSON** 20世紀、フランスの文化人類学者で構造主義を確立した思想家。 13
14. **BOOK** レヴィ=ストロースの主著で、未開社会の神話的思考と文明社会の科学的思考は、構造が異なるが論理的という意味では同等と主張。 14
15. レヴィ=ストロースが、結婚制度の構造を明らかにした社会条件。集団内部での結婚を禁止することにより、女性の交換としての結婚が、他の集団との良好なコミュニケーションを維持する手段であると説明。 15
16. **PERSON** 20世紀、フランスの哲学者。構造主義と深く関わる思想を展開。権力が抑圧する狂気や性に注目。「知は権力である」と主張し、現代社会の権力は知をからめとり、それを人々を抑圧する手段にしていると説明。 16

T. Q. 「構造主義が西洋中心主義をノックアウトしたとは、どういうことか？」

T. A.

仏の文化人類学者レヴィ=ストロースは、未開社会の神話的思考（野生の思考）は文明社会の科学的思考（栽培された思考）とは異なる構造の思想であるにすぎず、どちらも論理的で同等であると主張したこと。また同じく仏の哲学者フーコーが、狂気や性を社会がどう扱ってきたかを歴史的に研究し、真理とは社会構造（システム）を通して得られるものなので文化や時代によって異なり、様々な真理とされるものの間に優劣はないと主張したこと。